【投信調査コラム】日本版ISAの道　その353

情報提供資料
2022年3月22日

欧州投信協会が欧米投信コストの同種比較!

～日本を含めた最新のプロダクト･コスト比較とディストリビューション&アドバイス･コスト比較～

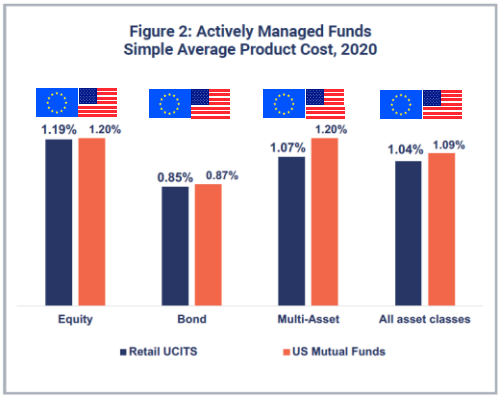
三菱UFJ国際投信株式会社　商品マーケティング企画部 松尾 健治
窪田 真美

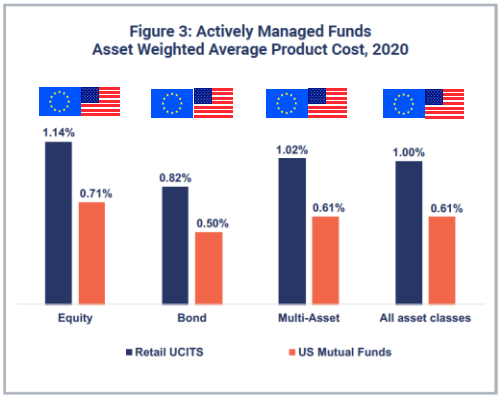
※三菱UFJ国際投信がお届けする、NISAなど内外の資産運用に関連する情報を発信するコラムです。

●欧州投信協会が欧米投信コストの同種比較!～日本を含めたプロダクト･コスト比較～

2022 年 3 月 4 日に欧州投信協会(正確には欧州投資信託･資産運用協会/European Fund and Asset Management Association/EFAMA)が「UCITS(EU の個人投資家向けファンド)と米国ミューチュアルファンドのコスト同種比較(The Costs of UCITS and US Mutual Funds – We can only compare like with like)」と言うレポートを発行した(2022 年 3 月 4 日付 EFAMA/欧州投資信託協会「Market Insights No.8」～ https://www.efama.org/newsroom/news/us-mutual-funds-are-not-necessarily-cheaper-ucits-efama-market-insights-issue-8)。 欧米の個人向けファンドの 2020 年経費率(ファンドを保有している間にかかるコスト)から販売とアドバイスに支払われるディストリビューション&アドバイス･コスト/costs of distribution and advice を除いて「プロダクト･コスト/product cost」と呼び同種比較をしている。

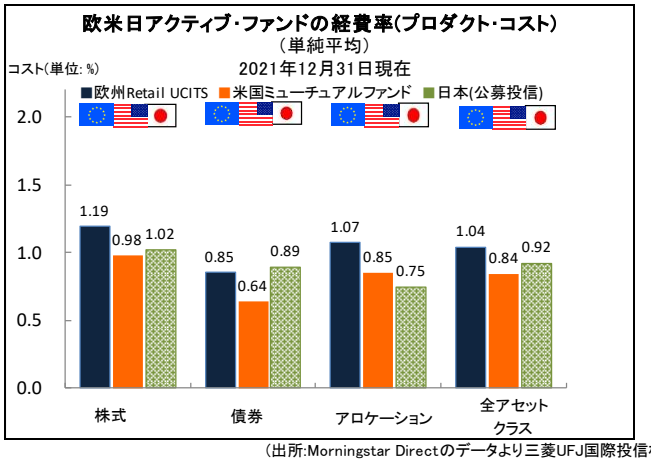
欧州投信協会によるとアクティブ･ファンドのプロダクト･コストは単純平均で欧州が低く、純資産加重平均で欧州が高かった(米国の投信コストが低い理由…※1 参照、下記左が単純平均で右が純資産加重平均、各々の棒グラフの左が UCITS、右が米国ミューチュアルファンド、国旗は当コラム筆者による)。

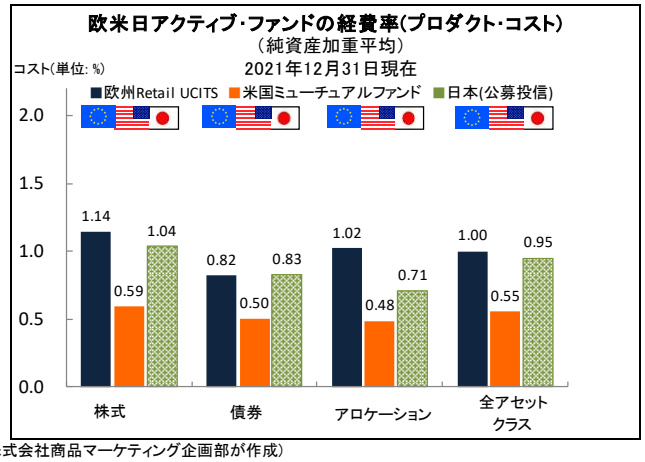




(出所: 2022年3月4日付EFAMA/欧州投資信託協会「The Costs of UCITS and US Mutual Funds – We can only compare like with like」)

当コラムでは日本を加え最新 2021 年で作成した。 **アクティブ･ファンドのプロダクト･コストは総じて単純平均でも純資産加重平均でも日本は欧州と米国の間に位置していた**(単純平均のアロケーション及び純資産加重平均の債券を除く、米国の投信コストが低い理由…※1 参照)。





(出所:Morningstar Directのデータより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

*投信…日本は追加型投信(除く私募・ETF・DC専用・ラップ/SMA専用・公社債投信)。米国はミューチュアルファンド(除く私募/CITs・ETF・リタイヤメントクラス・機関投資家クラス・SMA等向けクラス・MMF)。欧州は2022年3月4日付EFAMA/欧州投資信託・資産運用協会「The Costs of UCITS and US Mutual Funds – We can only compare like with like)」を使用。

*経費率(プロダクト・コスト)…欧州はオンゴーイングチャージから、ディストリビューション&アドバイスコスト(distribution and advice)を除いたもので、2022年3月4日付EFAMA/欧州投資信託・資産運用協会「The Costs of UCITS and US Mutual Funds – We can only compare like with like)」を使用。米国はエクスペンスレシオ(金融庁とイボットソンの投信コスト計算方法に準拠して、モーニングスターが集計するRepresentative costを使用)、日本は実質的な信託報酬率から、それぞれDistribution (12b-1)Fees/信託報酬・販売会社分(代行手数料)を除いたもの。

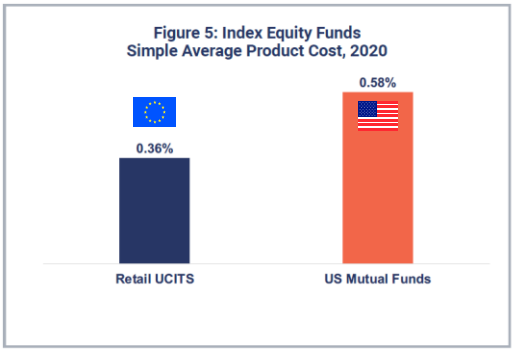
*実質的な信託報酬率…(日本の)ファンドの信託報酬にファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を加えた実質的な信託報酬率。

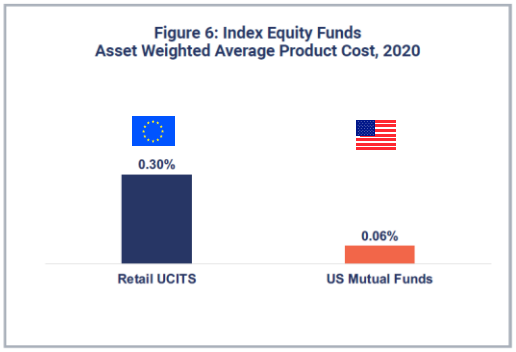
*信託報酬…日本は運用管理費用(課税前実質、上限値・年率)。 信託報酬のうち、投信会社分と販売会社分(代行手数料)が変動する場合は最小残高の場合。

*エクスペンス・レシオ…Expense RatioもしくはTotal annual operating expensesの事。 日本の信託報酬・投信会社分に相当するManagement Fees(成功報酬調整後)とTransfer agent Fees and expense、日本の信託報酬・販売会社分(代行手数料)に相当するDistribution (12b-1)Fees、日本の信託報酬・受託会社分に相当するCustdian Fees、日本の監査報酬に相当するAudit Fees、そして、投資対象ファンドの信託報酬等であるAcquired Fund Fees and Expenses/AFFE等の総額を、目論見書のProspectusもしくは運用報告書の(Semi-)Annual Reportから抜き出し、平均純資産で割って年率としたものである。 尚、日本の販売手数料もしくは解約手数料に相当するInitial Sales Fee (Front-end Load) もしくはDeferred Sales Fee (Back-end Load)は含まず、日本の売買委託手数料に相当するTrading Costs(Brokerage Commissions、 Market Impact、Spread Cost)も含まない。 値引き(Fess Waiver and/or Expence Reimbursement)前をGross Expense Ratioと言い、値引き後を Net Expense Ratioと言う。欧州ではTotal Expense Ratio/TERと呼ばれたものが、2012年6月からはオンゴーイング・チャージ/Ongoing Charges Figure/OCFに移行している(*TERとOCFの大きな違いはTERは成功報酬を含みOCFは成功報酬を含まない事)。

*分類…Global Broad分類のEquityとFixed IncomeとAllocation。全アセットクラスは左記3分類の合計。

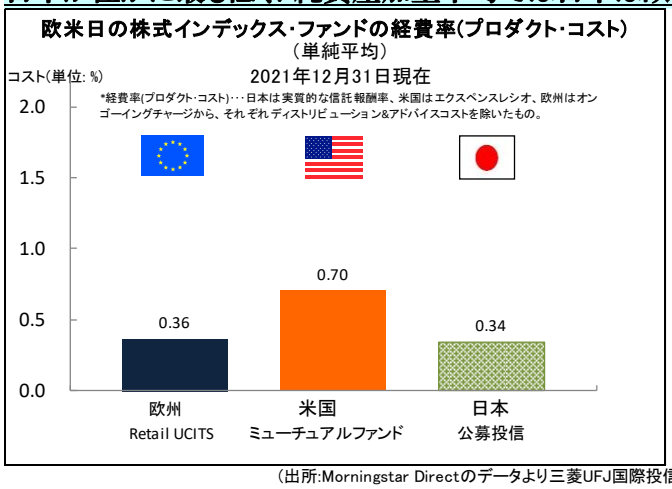
欧州投信協会によると株式インデックス・ファンドも(アクティブ・ファンドと同様)単純平均で欧州が低く、純資産加重平均で欧州が高かった(米国の投信コストが低い理由…※1 参照)。

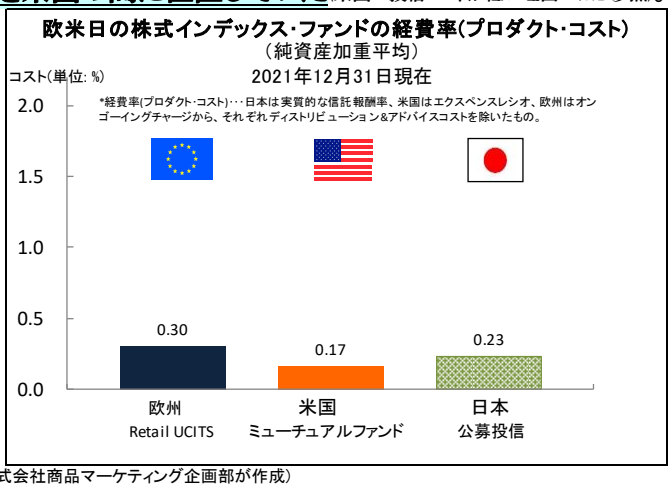




(出所: 2022年3月4日付EFAMA/欧州投資信託協会「The Costs of UCITS and US Mutual Funds – We can only compare like with like」)

当コラムでは日本を加え最新 2021 年で作成した。 **株式インデックス・ファンドのプロダクト・コストは単純平均では日本が僅かに最も低く、純資産加重平均では日本は欧州と米国の間に位置していた**(米国の投信コストが低い理由…※1 参照)。





(出所:Morningstar Directのデータより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

欧州投信協会は「主な調査結果&メッセージ/KEY FINDINGS & MESSAGES」として次の様に言っている(2022 年 3 月 4 日付 EFAMA/欧州投資信託協会「Market Insights No.8」～ https://www.efama.org/newsroom/news/us-mutual-funds-are-not-necessarily-cheaper-ucits-efama-market-insights-issue-8)。

・「投信コストの同種比較をすると/If we compare like with like、米国ミューチュアルファンドは必ずしも UCITS(EU の個人投資家向けファンド)より安いとは限らない。

・個人投資家に提供されるアクティブ・ファンドと株式インデックス・ファンドのプロダクト・コスト～販売とアドバイスのコストを除いたファンドのコスト/the cost of the fund excluding the costs of distribution and advice～の単純平均は現在、欧州が米国よりも僅かに低い。

・米国ミューチュアルファンドのコストは、UCITS のコストよりも少なくとも平均、もしくは、それ以上に高くなる可能性がある。 米国で投資家は全体的なファイナンシャル・アドバイス/holistic financial advice の恩恵を受ける為に支払うコストがある。

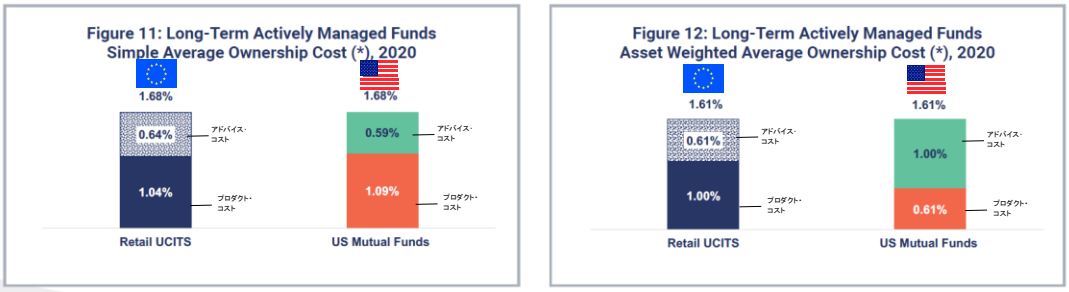
・プロダクト・コストとディストリビューション・コストの分離が必ず個人投資家に低い全部込みコストにつながると言う保証は無い/there is no guarantee that unbundling of the product and distribution costs will

necessarily lead to a lower all-in price for retail investors。 ほとんどの投資家は、プロダクトとアドバイスにどうおカネが支払われているのかを理解出来ていない。 従って、既存のコスト開示を見直し、おカネのどれだけがプロダクトやアドバイスに支払われたか個人投資家が理解出来る様にすべき。

欧州投信協会は「投信コストが必ずしも米国＜欧州とは限らないし、アドバイスで米国＞欧州の可能性もある。 コスト開示を見直し、どれだけプロダクトやアドバイスに支払われたかが理解出来る様にすべき。」と言いたくて、欧米で投信コストの同種比較をしたと言える。 プロダクト・コストと販売コストの分離(アンバンドリング)については 2017 年 10 月 2 日付日本版 ISA の道 その 198「投信で世界最大の米国で投信手数料は今?～経費率の歴史的低水準にはアンバンドルの影響あり、ただ米国でも 1990 年代にかけては少し前の日本の様に上昇していた事も～」(https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_171002.pdf)を参照。

●欧米日投信コストの同種比較!～ディストリビューション&アドバイス・コスト比較～

以上では投信コストのプロダクト・コスト比較(同種比較)をしたが、ディストリビューション&アドバイス・コスト比較(同種比較)はどうか。 欧州の投信協会によるとオーナーシップ・コスト/Ownership of Cost の中にディストリビューション&アドバイス・コスト(以下アドバイス・コスト)がある。 欧州は単純平均が**年 0.64%**で純資産加重平均が**年 0.61%**、米国は単純平均が**年 0.59%**で純資産加重平均が**年 1.00%**である(下記左が単純平均で右が純資産加重平均、各々の棒グラフの左が UCITS、右が米国ミューチュアルファンド、国旗は当コラム筆者による)。



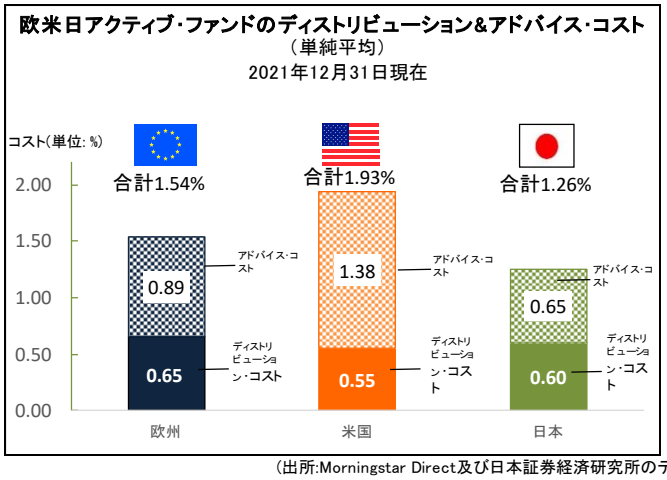
(出所: 2022年3月4日付EFAMA/欧州投資信託協会「The Costs of UCITS and US Mutual Funds – We can only compare like with like」)

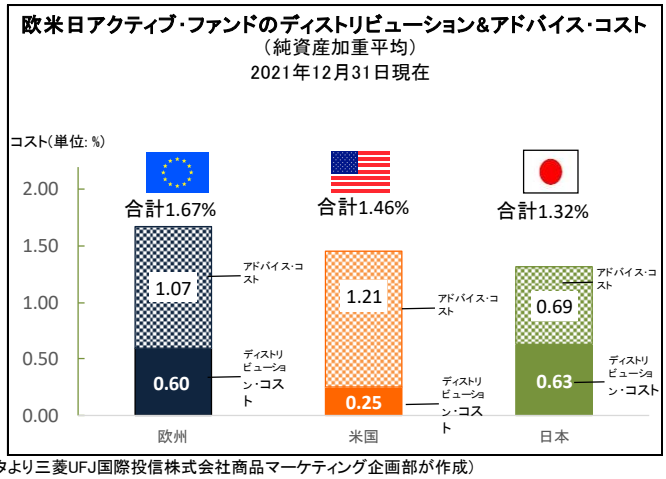
オーナーシップ・コストが欧米で一致している(単純平均年 1.68%、純資産加重平均 1.61%)。 このコストは欧州の個人顧客向けアドバイスベース・ディストリビューション・チャネル/advice-based distribution channel のオーナーシップ・コスト(単純平均は年 1.68%で純資産加重平均が 1.61%)であり、この水準コストを米国にも適用している(2019 年 9 月 16 日付 EFAMA/欧州投資信託協会「Market Insights No.6」～ https://www.efama.org/newsroom/news/fund-managers-retain-only-41-total-cost-paid-retail-investors-efama-market-insights)。 このコストから米国ではプロダクト・コストを引いてアドバイス・コストを算出している(単純平均が年 0.59%で純資産加重平均が年 1.00%)。

ただ、欧米共に、対面アドバイス・コストを過小評価している可能性が高い。 欧州投信協会も「アドバイスに英国では最初に 2.4%、継続的に年 0.8%が平均してかかる。」と言っている(ウェルスマネジメン最大手の英セント・ジェームズ・プレイスでは最初に 4.5%、継続的に 0.5%がかかる～2019 年 7 月 29 日付日本版 ISA の道 その 275「英国 IFA から考える日本版 IFA の道」～ https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_190729.pdf)、「(ISS マーケット・インテリジェンス/ISS Market Intelligence によれば)米国のアドバイス・フィーは 10 万ﾄﾞﾙ未満の小口投資家は年 1.5%で 100 万ﾄﾞﾙ超の大口投資家は年 1.0%前後である。」と言っている(2019 年 9 月 16 日付 EFAMA/欧州投資信託協会「Market Insights No.6」～ https://www.efama.org/newsroom/news/fund-managers-retain-only-41-total-cost-paid-retail-investors-efama-market-insights)。

米国では対面アドバイスのフィー(信報除く)が預り残高 10 万ﾄﾞﾙで**1.00～1.74%**とも言われている(2018 年 10 月 29 日付日本版 ISA の道 その 243「米国でアドバイザー・フィーが値下げへ!～ https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_181029.pdf)。 また、米国アドバイザー数最多エドワード・ジョーンズの対面アドバイスのフィーは**年 1.35%**、そのライバルであるレイモンド・ジェームズは**最大年 2.25%**である(2022 年 3 月 7 日付日本版 ISA の道 その 352「エドワード・ジョーンズ vs レイモンド・ジェームズ!～ https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_220307_3.pdf)。

そこで当コラムでは、販売手数料(最大)を 2020 年(末)の長期投資型ファンドの平均保有年数で割ったものをアドバイス・コストとして算出してみた(平均保有年数は 2021 年 8 月 4 日付日本証券経済研究所特任リサーチ・フェローの明田雅昭氏による「日米欧の投資信託平均保有年数(2020 年データ更新版)」を使用～ https://www.jsri.or.jp/publish/topics/pdf/21)。 もちろん日本を加え最新 2021 年で作成した。 **アクティブ・ファンドのディストリビューション&アドバイス・コストは単純平均では「米国 1.93%＞欧州 1.54%＞日本 1.26%」、純資産加重平均では「欧州 1.67%＞米国 1.46%＞日本 1.32%」、日本が最も低い**。





(出所:Morningstar Direct及び日本証券経済研究所のデータより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

*投信…日本は追加型投信(除く私募・ETF・DC専用・ラップ/SMA専用・公社債投信)。米国はミューチュアルファンド(除く私募/CITs・ETF・リタイヤメントクラス・機関投資家クラス・SMA等向けクラス・MMF)。欧州はルクセンブルグ籍とアイルランド籍のリテール(Retail)投資家向けUCITS。Global Broad分類のEquityとFixed IncomeとAllocationで、distribution fees＞0のもの。

*ディストリビューション・コスト…欧州UCITSのDistribution Fees、米国の12b-1/Distribution Fees、日本の信託報酬・販売会社分/代行手数料。

*アドバイス・コスト…Morningstar Directのデータより2021年12月末でアクティブ・ファンドの販売手数料の単純平均と純資産加重平均を算出、それを2020年(末)の長期投資型ファンドの平均保有年数で割ったもの。 2020年(末)の長期投資型ファンドの平均保有年数は2021年8月4日付日本証券経済研究所特任リサーチ・フェローの明田雅昭氏による「日米欧の投資信託平均保有年数(2020 年データ更新版)」(https://www.jsri.or.jp/publish/topics/pdf/2108_02.pdf)を使用。

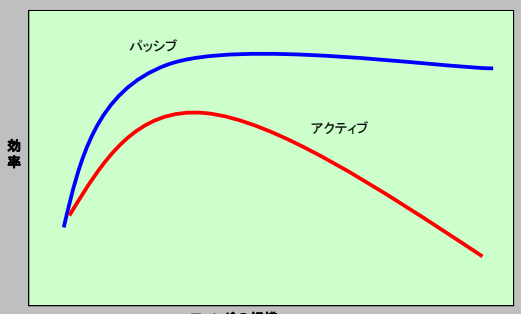
以上であるが、投信コストを比較する場合、対象データの抽出やデータの作成方法などによって、結果がまるで違って来ると言う事である。 欧州投信協会の「同種比較/compare like with like」を取り上げたが、2019 年に**カナダの投信協会(正確にはカナダ投資ファンド協会/Investment Funds Institute of Canada/IFIC)などは「アップル・トゥ・アップルの比較/apple to apple comparison」と言って、投信のトータル・コスト(CoO/Cost of Mutual Fund Ownership と言う投信の購入から運用期間中、そして解約にいたるまでのアドバイス等のコストを含めたもの)と言うものを算出、"アップル・トゥ・アップル"のグローバル比較(欧州投信協会同様、日本は除く)をしている**(※2 参照)。

欧州投信協会の「同種比較」にしても、カナダの投信協会の「アップル・トゥ・アップルの比較」にしても、何より重要な事は、内外の投信や規制を十分に知った人間が分析する事であり、そうでなければ、どんなに豊富なデータや良い分析ツールを使っても、ミスリードとなる場合がある(後述※1 及び※2 参照)。 規制当局やリーディング・カンパニーがミスリードをすれば業界にも多大な影響を与える。 ここは、日本の投信業界の健全な発展の為、官民揃って、欧州投信協会やカナダの投信協会の様なグローバルな投信比較に取り組む事が期待される(欧州投信協会もカナダの投信協会も日本の投信を除いている事から一層それが期待される)。

最後に、今回は欧州と米国と日本の分析だったが、先月、主要先進国 G7(日本、米国、ドイツ、英国、フランス、イタリア、カナダ)に投信大国ルクセンブルクとオーストラリアを加えた 9 カ国を対象とした投信コストの長期国際分析を ESG ファンドのコスト分析と共にしている。 2022 年 2 月 14 日付日本版 ISA の道 その 351「米国ではアクティブ・ファンドのフィーが安くなり、欧州では ESG ファンドのフィーが安くなる!?～コミッションやフィーが安い国と高い国～」(https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_220214_2.pdf)だが、ぜひこちらも参考にしてほしい。

※1: 米国の投信コストが低い理由～規模の経済、DCファンドや大口投資家ファンド等、最長クラス使用～…

投信コストの純資産加重平均で欧州や日本より米国が低い大きな理由に**米国のファンド規模が大きい為、「規模の経済」が働く事**がある。 2021年12月末時点で米国の投信で、純資産100億ﾄﾞﾙ以上(約1兆円以上)のファンドの割合は本数で1%程度であり(日本は0.05%、欧州は無し)、純資産の5割を占める(日本は4%、米国はミューチュアルファンドで除く私募・ETF・リタイヤメントクラス・機関投資家クラス・SMA等向けクラス・MMF、日本は追加型株式投信で除くETF、DC専用、ラップ/SMA専用、MRF等日々決算型の株式型と債券型とアロケーション型)。 **1本あたり純資産は米国710億円、欧州42億円、日本154億円**である(上記に同じ～欧州Retail UCITSはルクセンブルグ籍とアイルランド籍)。 その為、「**純資産100億円未満/1億ﾄﾞﾙ未満の投信の保有コストを見ると、日米でほぼ均衡しており、10億円未満/1000万ﾄﾞﾙ未満の投信では日本が米国より低くなる。**」(月刊「投資信託事情」2016年1月号<Strategic Vistas>「投信のコスト革命、変革の波はグローバルなトレンド!～米国や英国との投信保有コスト比較～」～ https://ibbotson.co.jp/researchjitr/jitri/)と言う事もある(2021年12月末でも同様である)。



(出所: 金融財政事情研究会「アセットマネジメント・ビジネス近未来」より)

投信コストの純資産加重平均で欧州や日本より米国が低い大きな理由に**米国ミューチュアルファンドに退職積立に使われる日本でいう所のDCファンドや、機関投資家や富裕層個人でないと買えない大口投資家ファンド/Institutional Sharesなどが含まれる**事がある。 欧州投信協会は米国のデータを米国投信協会(正確には米国投信会社協会/Investment Company Institute/ICI)が毎年発行しているファクトブックから入手しているが(https://www.ici.org/system/files/2021-05/2021_factbook.pdf)、この米国ミューチュアルファンドにDCファンドや大口投資家ファンドなどが幅広く含まれている。

当コラムでは**UCITSについては投資家タイプを「リテール(Retail)」と開示しているファンド、米国ミューチュアルファンドについては個人が購入出来るファンド、具体的にはAクラス、Bクラス、Cクラス、インベスター・クラスを抽出**している(Aクラス…基本的に初期最小購入単位が2500ﾄﾞﾙ以下で4%～5.75%の購入時手数料あり、Bクラス…購入時の手数料なしでAクラスより12b-1 Feesは高く8年前後保有し続けるとAクラスへ移管するものの6年前後以内に売却すると解約手数料がかかる/Contingent Deferred Sales Charge/CDSC、Cクラス…購入時手数料なしでAクラスより12b-1手数料は高く1年以内に売却すると解約手数料が1%かかるなどする、インベスターズ・クラス…基本的に初期最小購入単位10000ﾄﾞﾙ以下で購入・解約手数料無しのVanguardのクラス～Morningstarより)。

米国の投信を分析する際、あまりにシェアクラスが多いと、最長シェアクラス(設定の最も古いOldest Class)を用いる事がある。 2021年6月25日付金融庁「資産運用業高度化プログレスレポート2021」のp.10でも「**エクスペンスレシオは、投信の資産残高に占める運用報酬その他経費の比率を示す。 日本は実質信託報酬、米国・ルクセンブルクは最長シェアクラスの実質信託報酬**」とあった(https://www.fsa.go.jp/news/r2/sonota/20210625_2/20210625_2.html)。

ただし、最長シェアクラスでのコスト分析は注意が必要である。仮に一般個人投資家のコストを分析する場合、最長シェアクラスがAクラス、Bクラス、Cクラス、インベスター・クラス等個人投資家向けクラスであれば良い。

しかし2021年12月末現在、**Aクラスは945本と13%(純資産では15%)。機関投資家クラスが3060本と43%もある(純資産では34%)。** 例えば、かつて純資産最大級だった「ピムコ・トータル・リターン/PIMCO Total Return」は販売手数料0%で経費率0.47%の機関投資家クラス(1987年5月11日設定、初期最小購入単位/Minimum Initial100万ﾄﾞﾙ)が最長クラスである。 だが、「ピムコ・トータル・リターン」には販売手数料3.75%で経費率0.81%のAクラスや販売手数料0.00%(解約手数料1%)で経費率1.56%のCクラス(AクラスもCクラスも1997年1月13日設定、初期最小購入単位/Minimum Initia1000ﾄﾞﾙ)もある。 ここで最長シェアクラスのコストで分析すると、「ピムコ・トータル・リターン」全体が経費率0.47%の機関投資家クラス(初期最小購入単位/Minimum Initial100万ﾄﾞﾙ)となり、経費率は一般個人投資家に適用されない低さまで下がってしまう。

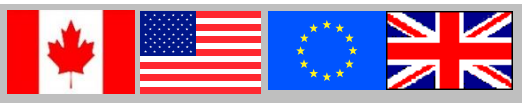
米国のミューチュアルファンドの最長シェアクラス(設定の最も古いOldest Class) 本数の大きい順

2021年12月31日現在

順位	クラス	ファンド(クラス)本数	純資産(百万ﾄﾞﾙ)	比率(%)
1	機関投資家	3,060	3,995,240	33.90
2	A	945	1,819,960	15.44
3	その他クラス	900	1,806,440	15.33
4	ノーロード・クラス	745	2,172,110	18.43
5	インベスターズ・クラス	525	1,435,720	12.18
6	R	510	335,598	2.85
7	アドバイザー・クラス	113	61,553	0.52
8	S	113	55,151	0.47
9	C	65	14,199	0.12
10	N	62	11,817	0.10
11	M	34	33,056	0.28
12	B	28	2,408	0.02
13	D	17	40,084	0.34
		7,121	11,785,628	100.00

(出所: Morningstar Directより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

※2:　カナダの投信協会も同種比較/アップル･トゥ･アップルの比較…。

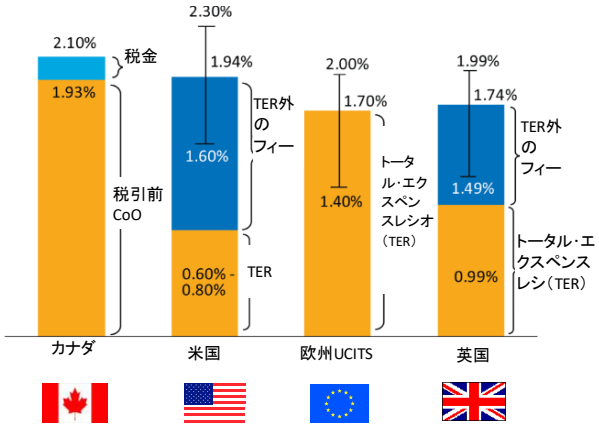


カナダの投信協会(正確にはカナダ投資ファンド協会/Investment Funds Institute of Canada/IFIC)は 2019 年 7 月 26 日にストラテジック･インサイト社の委託調査レポートを公表、その中で、投信のトータルコスト(CoO/Cost of Mutual Fund Ownership と言う投信の購入から運用期間中、そして解約にいたるまでのアドバイス等のコストを含めたもの)を提示、“アップル･トゥ･アップル”のグローバル比較(欧州投信協会同様、日本は除く)を試みている(2019 年 7 月 26 日付カナダ投信協会「Monitoring Trends in Mutual Fund Cost of Ownership and Expense Ratios- A Global Perspective—2019 Update - IFIC.ca」～ https://www.ific.ca/wp-content/uploads/2019/07/Monitoring-Trends-in-Mutual-Fund-Cost-of-Ownership-and-Expense-Ratios-A-Global-Perspective-2019-Update.pdf/22825/)。

そこでアクティブ･ファンドのトータルコスト/CoO は、カナダは 2.10%だが、税金を除いた 1.93%では、米国 1.94%、欧州 UCIT2.00%、英国 1.99%に近くなり、アドバイスのコストを含むトータルコストで見ると、カナダのバランスファンドの MER/マネジメントエクスペンスレシオは米国とかなり近かったと言う。

アドバイスありのアクティブファンドのトータルコスト比較 2018年

トータルコスト･･･カナダはアドバイスありの販売チャネルで購入された投信でCoO（Cost of Mutual Fund Ownership）にアドバイス等のコストを含む。 米国と英国はフィー･ベースプログラム利用でアドバイス･フィーはアンバンドルされている（青い部分に含まれる）。 欧州UCITSは、アドバイス･フィーがトータル･エクスペンス･レシオ（TER）に含む場合。



（出所: 2019年7月26日付カナダ投信協会とストラテジック･インサイト「Monitoring Trends in Mutual Fund Cost of Ownership and Expense Ratios- A Global Perspective—2019 Update」より三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成）

「投資家の視点による投信フィー･ランキング(モーニングスターの 2019 年版レポート)で、カナダは世界最下位でなくなった。 アンバンドリングと、低コストのフィーとは高い相関がある。 コストの最も低いオーストラリア、ニュージーランド、米国は、いずれも埋め込まれた報酬/embedded compensation(投信会社から販売会社やファイナンシャル･アドバイザーへ販売報酬として支払うトレーリング･コミッション)が禁止されている。 カナダの投信協会のポール･C･ボーグ/Paul Bourque プレジデント兼 CEO はモーニングスターの 2019 年版レポートについてこう指摘する。『いまだに、“アップル･トゥ･オレンジの比較/comparing apples to oranges/異なる条件での比較”をしている。 主として手数料がバンドルされた国と、そうでない国とを比べている。 国際比較は、オーナーシップや投資家にかかるトータル･コストを検証するべきである。 そこには全ての国において、アドバイスのコストを含むものとなる。』と言う。」(2019 年 9 月 22 日付カナダの新聞の The Globe and Mail「Canada is no longer dead last in a global ranking of how is paid in fund fees」～ https://www.theglobeandmail.com/investing/article-canadas-investment-fee-ranking-improves/)。

さらなる詳細は 2020 年 2 月 3 日付日本版 ISA の道 その 295「日本の証券手数料は海外に比べ割高?～米国より情報が早い日本の投信協会、手数料批判に反論するカナダの投信協会。 欧米著名大博士「世界のミューチュアルファンド･フィー」の 2019 年版を作成した所、厳しい規制の英国やオーストラリアでコミッションやフィーが急低下する中、英国は今、RFA の 5%初期手数料等でロードファンドの購入時手数料は 3 年連続上昇中。～」(https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_200203.pdf)を参照の事。

以　上

三菱 UFJ 国際投信【投信調査コラム】日本版 ISA の道 バックナンバー:
「各年ごと…https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html 」、
「2013 年 2 月 1 日付日本版 ISA の道 その 1 から一気に見る/検索する…
https://www.am.mufg.jp/smp/market/report/investigate.html 」もしくは
Google 等で「投信調査コラム」もしくは「日本版 ISA の道」と検索。

本資料に関してご留意頂きたい事項

〇当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
〇当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
〇当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
〇当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
〇当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
〇投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
〇投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
〇投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
〇投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
〇クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご留意ください。
〇投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。